

設計コンセプト

駐車場の一部を緑地にして街の中に緑の空間を散りばめる



中心市街地にある既存の駐車場のグレーな面積を減らし、芝生にしたりそこに樹木を植えたりすることによって緑の空間に変えていくことを計画する。対象地区全体の面積の3%程度が緑地になるように計画し、「森の都市」にすることを指す。

生まれた緑地を人々の交流の場にする。

街の中に広めの緑地を作っても芝生が生えているだけではただの空き地であり、人々の交流は生まれない。そこで、人々が緑地に集まるような仕掛けをつくる。本研究では、子育て世帯のママが主体となつて子どもたちのため、子育てをするママたち自身のための活動をしていく仕組みを提案する。

子育てママが子育てママのために

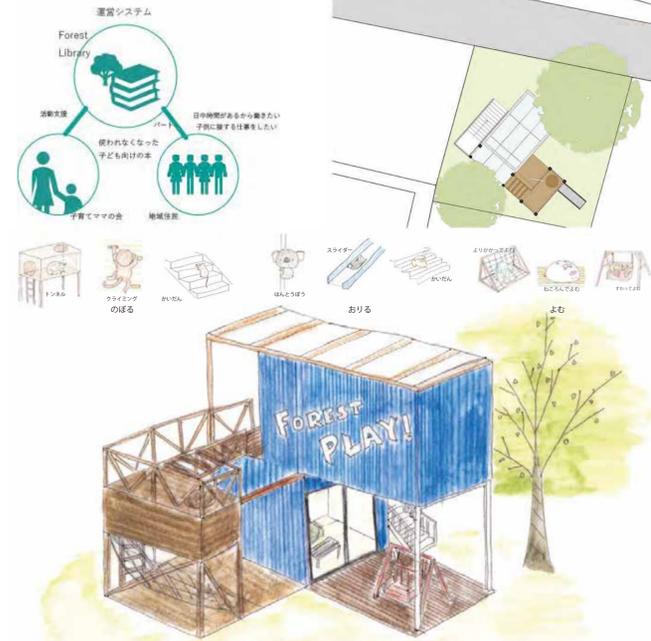
- A. 柏の中心地に子どもが遊ぶための場所をつくる
- B. 子育て世帯同士の交流の場所をつくる
- C. 子どもを育てながらも働きやすい場所をつくる
- D. 子ども連れでも安心してすごせるお店をつくる



遊びのユニット

図書館とアスレチックの融合

ただ図書館で本を借りるだけではつまらない。長く滞在してほしい、何度も来てほしいという思いから、図書館とアスレチックを合体させて、様々な図書館へのアクセス、本の読み方のパターンができるようにした。



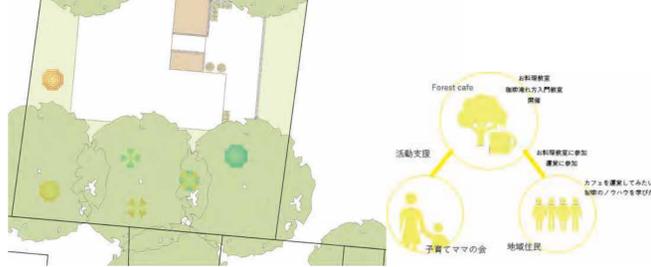
街の中に緑と憩いの場を

現在の中心市街地は、空地が駐車場化され街がどんどんグレー化している。一方で緑地は増えることなく人が落ち着くことのできる外部空間が不足していると感じる。本研究では「公園・緑地の不足」、「空き地の駐車場化」、「子育て環境」などの課題を抱える、千葉県柏市のJR柏駅周辺（柏セントラル）を研究対象とし、街中に緑を増やす計画をする。

食のユニット

「食べる」をもっと好きになるカフェ

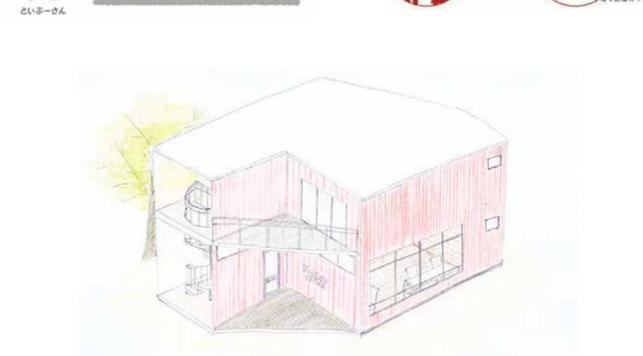
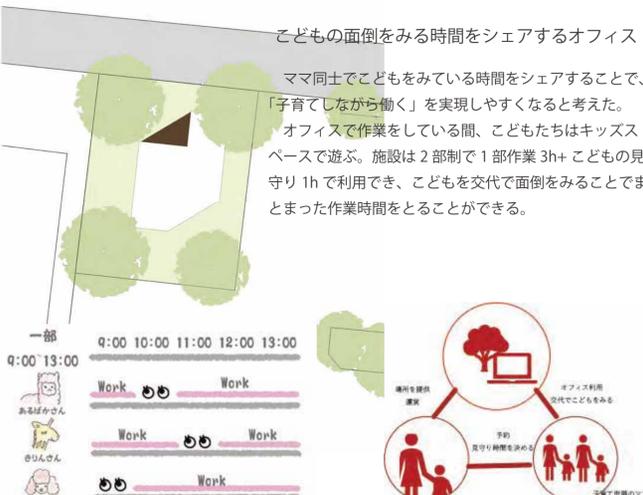
料理教室や珈琲講座など、食について学ぶことができるカフェ。屋上にはコミュニティ菜園があり、地域のみんなで育て、みんなで食べることができる。小さい子どもと一緒にでも利用しやすいようにベビールームを設置した。「外」の空間を楽しんでほしいので緑地にカラフルなパラソル席をつくった。



働くユニット

子どもの面倒をみる時間をシェアするオフィス

ママ同士で子どもをみている時間をシェアすることで、「子育てしながら働く」を実現しやすくなると考えた。オフィスで作業をしている間、子どもたちはキッズスペースで遊ぶ。施設は2部制で1部作業3h+子どもの見守り1hで利用でき、子どもを交代で面倒をみることでまとまった作業時間をとることができる。



集まるユニット

地域の人々をつなぐ空っぽの箱

展示会やワークショップを行うとき、クリスマス会などのシーズナリなイベントを行うときに集まれる多目的な空箱の役割を果たす。毎週ヨガなどの教室が開かれ、空いている時間は予約制のレンタルスペースとして、友達同士でのパーティー、ダンスの練習などに使うことができる。

